

美坂先生の イタリア留学記 前編



いつも穏やかな笑顔で松陽高校生に美術を指導してくださる美坂先生。今年度から本校で教鞭をとる先生は、昨年度は本県で権威ある海老原賞を受賞し、イタリアで一年間の美術留学を経験された。今回、その留学の学びや体験を取材した。その興味深い内容を、2回シリーズでお伝えする。

作品の普遍性求めて 「表現は自由でいい」実感

数々の

超絶技法に感銘

Q 留学のきっかけと概要を教えてください。

A 南日本美術展の海老原賞を受賞し、欧州へ一年間留学する機会をいただきました。場所はイタリアのフィレンツェです。彫刻に関心がある私にとって、ローマ時代から彫刻の文化が息づく土地は魅力的でした。ミケランジェロも住んだこの

街は、歴史的街並みがそのまま残る、歩いているだけで美術館のような美しい場所でした。

Q 到着時の第一印象は？

A 夜9時に着き、とりあえず無事に着いてほっとしました。海外は交通事情が日本と違うこともあり、荷物が無事に届くか不安でしたが、何事もなく受け取ることができて安心しました。一年間の期待と不安が入り混ざった出発でした。

Q 最も印象に残った作品は？

A ボローニャのサンタ・マリア・デッラ・ヴィータ聖堂にある「死せるキリストへの哀悼」です。15世紀後半、ニッコロ・デッラルカが手がけたテラコッタで、マリヤがキリストの死を嘆き叫ぶ表情が核心に迫る迫力がありました。テラコッタは、粘土を焼成した素焼きの彫刻です。テラコッタのイメージとして、薄い表



ニッコロ・デッラルカ作『死せるキリストへの哀悼』(ボローニャ・サンタ・マリア・デッラ・ヴィータ聖堂) ※美坂先生撮影

現や細かい表現は難しいと思っていました。細部まで作り込まれた作品に目を奪われました。

ナポリのサン・セベロ礼拝堂にある「欺瞞からの解放」は、18世紀フランチェスコ・ケイローロが大きな大理石の塊から彫り上げた作品で、その緻密さと迫力に圧倒されました。特に、石とは思えないほど繊細に表現された「網」の部分の

技術には驚嘆しました。さらにベネチアでは、古代ローマの彫刻に和柄のタトゥーを施した現代作家ファビオ・ヴィアーレの作品に出会い、日本と欧州を結ぶ斬新な発想に驚かされました。

仏像・祈り

テーマに意欲

Q イタリアと日本との作品制作の違いは？

「お手伝い」と「過度な負担」の境界線は曖昧で、周囲が「これくらい大丈夫」と言ったり、本人がそう思い込んでいたりすることで、気付かぬうちに追い詰められてしまふ。相談できず孤独感を抱える若者も少なくない。こうした状況を防ぐためには、相談窓口や福祉サービスにつながる環境づくりが欠かせない。そして私たち高校生にもできることがある。家庭の事情で負担を抱えている友人は、学校では普段通りに見えるかもしれない。だからこそ、いつもと違う様子

見えない負担に気付く目を ヤングケアラー問題を考える

高校生では家計を支えるためのアルバイトなど、負担の内容は多様だ。問題は、こうした若者への支援が十分に届いていないことだ。あるテレビ番組では、小学6年生が5人の弟妹の面倒を見る様子が放送され、家庭の事情を理解しないまま批判する声が相次いだ。手伝いや家事分担は大切だが、幼い子どもが自分の時間を犠牲にして家族を支える姿は、決して美談ではない。学業や心身の健康に影響が出ることもある。

夏休みが終わり、再び学校で友人と顔を合わせる時期になった。長い休みの間、私たちは部活動や遊び、家族との時間など、それぞれの生活を過ごしてきた。しかし同じ夏休みでも、家で家族の世話や家事を担い、自由な時間をほとんどなかった友人がいるかもしれない。それは社会問題として注目される「ヤングケアラー」の可能性もある。う。中学生では幼い兄弟の世話、

原口内閣が発足 「実行力ある生徒会」目指す

6月10日の立ち会い演説会・同日選挙を経て、松陽高校の新生生徒会が発足した。生徒会は17名で構成され、執行部と各種委員会が協力して運営する。生徒会長の原口莉緒さん(2-4 紫原中)は、



生徒会長
原口莉緒さん

「これまでの生徒会活動での経験を活かし、生徒一人ひとりの声を大切に、学年や学科を超えて支え合える、より良い松陽高校をつくらせていきたいです。また、皆さんの声を行動に移す。実行力のある生徒会を目指します」と抱負を語った。

副会長の上園優菜さん(2-1 串木野中)は、「新生生徒会メンバーと一緒に活動できることが楽しみです。旧生徒会から受け継いだ思いを大切にしつつ、新しい発想も取り入れながら、松陽高校をさらに良い学校へ導いてくれることを期待したい。」
「坂元咲愛」

Q 美術観に変化は？

A 多くの美術関係の留学生の世話をされてきたフランスに住む鹿児島出身の女性から「後世に残る作品には普遍性が必要。それは宗教や時間、命を感じさせ、昔の人々も今も百年後の人も同じ感情を抱くもの」と教えていただき、深く腑に落ちました。

た。しかし、それには美術の歴史的背景を理解する必要があるため、今一度しっかりと勉強していく必要があると感じました。

Q 今後の創作の方向性を教えてください。

A 日本人として仏像や祈りをテーマにしながら、西洋の要素を融合させた作品を作りたいです。金継ぎの技法を取り入れ、「再生」の意味を込めたいと考えています。

【米倉京夏】



フランチェスコ・ケイローロ作『欺瞞からの解放』(Il Disinganno) (ナポリ・サン・セベロ礼拝堂)
出典: Wikimedia Commons ライセンス: CC BY-SA 4.0